

ロンドンの水辺再生 フローティング・ヴィレッジへの挑戦

日時: 2009年11月11日 18:30 ~ 21:00

場所: 法政大学デザイン工学部 マルチメディアホール(法政大学市ヶ谷田町校舎)

主催

法政大学大学院エコ地域デザイン研究所

法政大学デザイン工学部建築学科

記録編集: 法政大学陣内研究室 樋渡彩

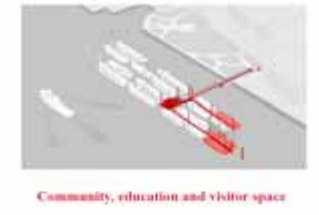
話者	内容	パワーポイント
陣内先生	講演会を始めたいと思います。今日はロンドン芸術大学教授で、映像アーティストでいらっしゃいます、クリス・ウェインライト先生をお招きしております。皆さん拍手。	
会場の拍手		
陣内先生	私は法政のこのデザイン工学部におります陣内と申します。今日はお世話をさせてもらっています。 で、通訳として井出玄一さんに今日いらしていただいているんですけども、彼はポート・ピープルという大変素晴らしいアクティビティをやってらっしゃって、東京、横浜この辺の海をすごく愛していて、いろんなところで活動していらっちゃって、クリス・ウェインライト先生とは、ほんとに一緒に活動なさっている。またあとで紹介いただきます。 ロンドン芸術大学の東京での活動拠点の事務局の責任者をやっていらっちゃって、まさにいるんなところで、東京都ともつながっているし、様々なですねコレポレーションが今、先生のグループと日本とで行われているようです。 私も一回、前にクリス・ウェインライト先生が東京でオーガナイズされたセミナーにお呼びいただきまして、あの時は学生さんがいっぱい来て下さって、東京のレクチャーをやらしていただいて、今度、逆にロンドンのレクチャーをやっていただくということで、ちょっとご紹介をですね... そのまゝに、建築学科の主任の永瀬先生	
永瀬先生	法政大学デザイン工学部建築学科主任の永瀬と申します。今日は本当に雨の中おいで下さいましてありがとうございます。 この講演会は、建築学科と法政大学大学院のエコ地域デザイン研究所、その両方の主催ということで開催させていただきます。 今、陣内先生からご紹介がありましたけれども、ロンドン芸術大学の映像アーティストでもありますクリス・ウェインライトさんをお招きして、「ロンドンの水辺再生 フローティング・ヴィレッジへの挑戦」というタイトルでお聞かせ願えるということで、このタイトルのフローティング・ヴィレッジと言うのを聞いて、あ、これは捨て置けない、ということで、ぜひ聞かせていただこうということで、楽しみにしているんですけども。 ボルネオの水上集落を調査している出口先生が来ていますけども、出口先生と一緒に調査をしたもんですから、それとの関連性がどうあるのかな、と思いながらお聞きかせ願えると楽しみにしております。よろしくどうぞお願いいたします。	
クリス・ウェインライト先生	Thank you for ...	
井出玄一(通訳)	皆さん今晩は、今日はいよいよいらしていただきました。今日、この場にいられること大変うれしく思っております。私はクリス・ウェインライトといひます。東京に来るのは実はもう20回目くらいなんですけども、普段はUniversity of the Arts Londonと言うイギリスの大学のカレッジの学長として来ております。今日はいつもと状況がかなり違うんですけども、普段はアートとか大学の関係で日本にきますけども、今日はウォーターフロントの自分のリサーチの話をするので、もしかすると、私よりも皆様の方がむしろこのフィールドには詳しい方が多いかもしれないので、どうぞ、その辺ご理解いただければと思います。	
ウェインライト先生	Thank you ...	
井出氏	今日はですね、Hermitage Community Mooringsプロジェクトと言う、この桟橋のプロジェクトをご紹介したいと思っています。このプロジェクト、私はもう5年以上関わっております。このプロジェクトというのは私にとってですね、単なるプロジェクト以上の意味を持っております。というのはこれはですね、これはロンドンの私の自宅ですね、家がまさにこの桟橋ですので、そういう意味ではもう家ごと、まるごとかかったプロジェクトというものです。	
ウェインライト先生	So this is ...	
井出氏	今出ているのが題名です。今日のレクチャーの題名であり、桟橋の名前です。 Hermitage Community Mooringsと言ひまして、HCMと言うのは略称です。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	このプロジェクトは5つほど重要な機能がありまして、そのまず第一はですね、ロンドンの中心、どまん中に、水の上に合法的に船上に住む、ということが一つあります。他にもですね、非合法で住んでいる人は何人かいるんですけども、そうではなくて、公的に住む、ということが重要な機能のひとつです。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	ここで私たちがどういう団体かと言うことをご紹介いたします。この桟橋は会社組織によって共有をしております。2004年11月にこの会社がまずつくられました。17名の株主が歴史的な活躍をしていたボートを所有している人たちがですね、17名ほど集まりまして株主として参加しています。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	ここで言葉を詳しく説明したいんですけども、shares二行目の言葉はですね、なかなかよく誤解されるので詳しくご説明しますと、この会社組織はコーポラティブという協同組合みたいな形式をとっています。参加者全員は全く平等の立場で参加しているということで、代表権を持った理事会のみみたいなものはあるんですけども、出資は全員平等にやっているということで、出資と言うかですね、参加形式は全員平等です。停める船の長さによって支払う金額が変わってくるという、そういうシステムをとっています。	

ウェインライト先生	So, we...	
井出氏	それでここ、どういう人が参加しているかというのをですね、ご紹介したいんですけども、このプロジェクトに参加している人たちは、経験豊富な船乗りとうか、船に慣れている人たちです。ひとつの船につき、最低一人は公式な認可を受けた経験者が一つの船には必ずいるというふうになっています。	
ウェインライト先生	These are ...	
井出氏	例えば、この船がですね、停るっている船のひとつの写真なんですけども、全ての船が自走して、古い歴史上の船なんですけども 自走 して動き回れる船です。	 <p>Traditional galleons and coracles with a range of power capabilities</p>
ウェインライト先生	One of the ...	
井出氏	このですね、プロジェクトを私たちが始めた最大という、ひとつの理由というのはですね、歴史上の、歴史あるこの船を停める場所をつくりたかったということです。現代、今日的な意味では私たちの家なんですけども、歴史的にはですね、こういった歴史のある古い船を保存することがひとつの目的です。これがそのテムズ川のその歴史にですね、歴史につながる船を停めています。これは行政、許可をとるときに行政との議論になったことなんですけども、歴史上の船を保存するという意味においてですね、一番いい方法というのは、それに住むことだ、というそういう議論をしました。住めば、それを一所懸命自分のものとして、大切に家として使いますので、それがその保存の最大の、最良の候補だというようなことを話しました。	 <p>From the 'Golden Age' of the 17th century</p>
ウェインライト先生	This ...	
井出氏	とすることで、このプロジェクト最大の動機というのは、そういう古い船を停める場所を皆でつくろう、ということだったんですけども、特にですね、その技術というか、技を持っている人たちが集まっているというのも大きな特徴です。ボートは実際に今でも活躍しているボートですので、沢山のエキスパートが集まって船を保存しています。たとえば、エンジンの専門家、それから帆の専門家いたりですね、メタル、鉄を使う専門家とか、木を使える人、そういう専門家が集まってやっています。	 <p>Tree Shelters - Dutch Barge</p>
ウェインライト先生	This is my house ...	
井出氏	これが私の家です。	
ウェインライト先生	This...	
井出氏	それでこの船はですね、ロンドンで1961年に建造された船です。このテムズ川を下って、海に出まして、もともとの使い方はですね、北イン...、イギリスの北部の方のですね、沿岸沿いに舟運をして、物を運ぶ輸送船だったわけなんですけども、主に運んでいたのは、砂とか、corn(穀物)とか、木材、そういったものも運んでいたの、名前もコースターという沿岸という名前が付いています。	 <p>Rose - British Heritage Coastal</p>
ウェインライト先生	This is...	
井出氏	この写真はですね、船の形をちょっと見ていただきたいんですけども、非常にへらべたい形をしていますけども、これはですね、上に構造物をつくっていないということが一つの特徴です。というのはですね、私たちがやろうとしているのは、古い船の形をそのままなるべくオリジナルな形を残そうということをやっていますので、上に何か屋根とか構造物をつくったりはしていません。なるべく、元の形を残しているんですね。残すことによって、その船の歴史的な価値を保存していこうということをやっています。	 <p>Sherrington - Dutch Barge</p>
ウェインライト先生	So that's...	
井出氏	ボートのことはですね、また後でお話したいんですけども、今、ここで私たちのやっている場所について、場所とですね、まわりの背景というか、場所の状況についてご説明したいと思います。	
ウェインライト先生	So ...	
井出氏	ロンドンと言う町はもともとテムズ川の川に沿ってつくられた町なんですけども、その理由という、大きな理由の一つはですね、商業、通商と言うことはあったと思います。特に国際間の通商があったわけですね。川にはですね、沢山のボートとか、倉庫とかですね、品物、貿易で使うような品物を保存するような場所も沢山あったわけなんですけども、私たちの意図としてはですね、ロンドンがコスモポリタンで、国際間の通商の町だということ、そういう重要性がわかるようなプロジェクト、そういうプロジェクトにしたいと思っています。	 <p>London's River London's docks were once the hub of maritime trade. In the 1980s up to two thousand vessels unloading cargo to the pool of London.</p>
ウェインライト先生	So...	
井出氏	1800年代にはですね、約2000隻のこういった貨物船とか船がですね、テムズ川に停泊されていた、と言われていまして、そのあまりの数が多いので船から船に移って、テムズ川の反対側から対岸まで船を伝って歩いて行けるというぐらい船が沢山たまっていた時期がありました。	
ウェインライト先生	Would like...	
井出氏	20世紀に入りますと、これはもう、他のですね、世界中の都市もご多忙に漏れずなんですけども、ロンドンも交通とういうかその物資輸送がですね、船ではなくなって、川ではなくなって、鉄道に変わったり、道路、トラック、飛行機というものによって行きました。これはその方が時間が早いですし、効率もいいわけなんです。テムズ川自体は20世紀末になると空っぽになりまして、他の都市と同じだと思いますが、倉庫街がですね、どんどん、他の倉庫が別の用途に変わっていきました。その多くが高級マンションのような、そういったものになっていきました。	 <p>London's River London's docks were once the hub of maritime trade. In the 1980s up to two thousand vessels unloading cargo to the pool of London.</p>

ウェインライト先生	So...	
井出氏	ということでその川沿いとかですね、川がどんどん姿を変えていったわけなんですけども、多くはですね、倉庫なんかは高級アパートとか、高級ホテルもあるのかも知れないですけども、そういうものになっていまして、この写真でも、川自体が非常に、その静かになっていったわけなんです。この写真の後ろの方はですね、高層オフィスビルディングみたいなものも建っていきまして、そういった意味ではですね、川が使うものと言うものよりも、眺めるもの、もしくはレジャーで使うものになっていったわけです。	
ウェインライト先生	So I just...	
井出氏	それで、私たちがやっている場所はどこかというのは、ちょっとお見せしたいんですけども、この写真は1950年のテムズ川の写真です。まん中に見えるのはロンドンで一番有名な目印である、タワーブリッジ、それから右下の方はですね、タワーが沢山見えますけども、 これは倉庫の物資の荷揚げとかに使ったタワー、それから、左奥の方には、ドックヤードみたいなものもありまして、船着き場みたいなものもあります。それでさっき指したのが私たちのプロジェクトに場所なんですけども、もともとはHermitageという名前の場所でした。その近くに倉庫街みたいなものがあったわけです。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	これをもう少し大きな絵の地図なんですけども、これは、このプロジェクトで私たちがやろうとしたもう一つの事と言うのはですね、他の欧州のヨーロッパの別の国からロンドンに船で来てもらう、という事をもっとやりたいなというふうに思っています。この絵でありますように、ベルギーとかですね、北欧の方とか、オランダとかそう言ったところを、ロンドンというイギリスまで意外と近いんだよ、という事、それから船で来ることも可能なんだという事を多くの人に知ってもらおうという事も一つの目的でした。私たちの桟橋に停めてある船はですね、全て実際に外洋航海できる装備を備えています。例えば私の船はですね、先ほどお見せした船もオランダまで航海したことがあります。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	この地図でですね、少し海というか川の状況を皆さんに知っていただきたいと思うんですけども、まん中がロンドンなんですけども、ご覧のように川はですね、右の方の外洋から入ってきてまして、最初はものすごく広い川なんですけども、それがどんどん狭くなりまして、それがロンドンまで到達しています。という事は、何が起るかと言うとですね、潮の流れ、川の流れがですね、広い場所から水が押されて狭い場所に入っていきますので、潮がものすごく速くなって、非常にテムズ川というのは危険な川になりえるという事なんです。実際、水の速さはですね、4ノットから5ノットくらい、だいたい人間が徒歩で歩く速さだと思いますが、そのくらいになります。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	それで、ご覧のようにこの真ん中の場所が桟橋の赤いところが桟橋のところなんですけども、どんどん狭くなってきていまして、その結果ですね、ロンドンのこのあたりの場所では一日の潮位の差がですね、8メートルに及びます。これが1日2回ですね、起きますので、技術的に桟橋をつくるということが非常に難しいという状況になっています。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	それで、ここで、桟橋の今までの経緯をちょっとご説明したいと思います。2004年11月に購入された、という事なんですけども、特にですね、行政側との交渉、許可を得るための交渉、これについて詳しくご説明したいと思います。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	この桟橋は2004年11月に購入したんですけども、もともとはですね、非常に小さい桟橋だったんですけども、ボロボロの船がつけてあるような浮き桟橋でした。主にはボートの係留場所として、商業目的の桟橋として使われていました。 この桟橋はもともとは、ある一人の男性が所有していた物なんですけども、この人はですね、川の舟運とか、作業船の仕事をしている人で、ずっと所有していたんですけども、高齢になって、引退したいと思って、ちょうど引退したいと思っていたところなんですけども、そこに目をつけまして、その人のところを訪ねてですね、「この桟橋を購入したいんだ」というふうに言いました。「なんで欲しいんだ」と聞かれたんで、「ここに住みたいんだ」というふうに言ったら、「おまえあほじゃないか」と言われたんですけども、意外に意気投合して、その人が気に入ってくれて、気に入ってくれたおかげで非常に安い価格で購入することができました。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	それで、この桟橋を購入するにあたって、この係留権というか、ライセンスごと購入したわけなんですけども、これは港湾局、ロンドンの港湾局の決まりで、川を使う全ての業者ってというか、そういう人たちはライセンスを持たなければならない、となっていましたので、そのまま譲り受けました。もともとcommercial商業目的のライセンスだったんですけども、それをそのまま譲りうけることになりました。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	そのcommercialの、商業目的の許可だったんですけども、それをですね、居住目的の許可に変えなきゃなんなくてですね、行政と色々やりとりしたのはその辺のところだったんですけども、この写真は購入した当時の写真です。さびれた船がですね、沢山泊めてあるのをご覧頂けると思うんですけども、ここで一つ重要なのは桟橋自体がですね、陸となんの接点が無かったという事です。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	それで、このcommercial、商業目的の許可を住居目的の許可の桟橋に、許可に変えるにはですね港湾局の管轄になるんですけども、ここでその橋をですね、例えば陸と桟橋の間に橋をかけなきゃなんないとなりますと、この橋は陸側の行政の管轄になってくるんですね。そうしますと、planningって言うんですけども、都市計画だと思えますけども、都市計画のことが絡んでくるという事になります。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	それで、ここからがですね、私たちと行政側との4年間に渡る戦争ですね、戦争という状態に入っていきわけなんです。港湾局側は、水の港湾局側は割と私たちの事をですね、サポートしてくれていまして、割と早くすくにはですね、商業許可から居住許可から変えることはできました。1年後くらいにはそういった許可を得ることができました。	

ウェインライト先生	...
井出氏	海側、水側はそういう話だったんですけども、陸側は事情が違っていました。というのは、陸側の行政の人たちはですね、川に人が住む、ということ自体に全く慣れていない、というか、そういった前例になくてですね、そこどころが、全然理解できなかったようなんですね。私たちが何をしたいかという、法律の、今までの条文とか、範例だともいいますが、そういうものを全部読みまして、結局、私たちの結論としては、あきらめなくてもいけるんじゃないか、と言う結論に達したわけなんです。
ウェインライト先生	So...
井出氏	それで、2005年にこの許可申請を出すことになりました。 私たちが、市当局と主張した、というか、主張したことはですね、歴史上の価値がある船を保存する棧橋をつくらう、と言う事です。 その許可申請に際してですね、強調したことは川の再利用というか、川をもっと使うということを強調したわけです。 それで、もうひとつ付け加えた事としてはですね、この施設自体を教育的な目的、それから文化的な目的、それからcommunityの、周りの地域の人が使えろというよな、そういう目的をもった施設にしていこう、と言う事でした。
ウェインライト先生	So...
井出氏	それでこれがその棧橋全体のdiagramというか、鳥瞰図なんですけども、右の方に橋がかかっています。それで、この赤くなっている部分と言うのはですね、その一般の人、外部の一般の人が使用できる施設で、場所、部分を示しています。この右、左の方の赤い家屋がありますけども、上屋がありますけども、これ後でお見せしますけども、こういう所は外部の人も入れます。それから右下の方のですね、赤い船が泊めてあるところは、一般向けの棧橋と言うふうになっていまして、世界中、どこからでも船で来ててもこの棧橋に係留できる棧橋を常に確保しています。
ウェインライト先生	So...
井出氏	それで、ここでですね、陸と、その橋が陸に接する場所をちょっと、重要なところなんて見ていただきたいんですけども、ここは階段状になっていまして、100年以上前の階段がここにあるんです。それは、昔は船が来てですね、船を着けて人とか物をおろす場所だったんですけども、これは今となっては非常に貴重なものです。と言うのは、多くのそのテムズ川の階段というのは周辺のその周りの再開発計画で潰されてしまったので、私たちはこの階段が残っていたという事は非常に幸運なことでした。
ウェインライト先生	So...
井出氏	それで2005年には港湾局の許可をとりまして、環境省の許可もとりました。このプロジェクトがですね、川沿いの考古学的な発掘と、そういうものを壊していないというような許可でした。
ウェインライト先生	So we...
井出氏	井出氏それで2006年に許可のライセンスを貰いました。
ウェインライト先生	...
井出氏	それで、この陸側の行政、管理主体というのは、Tower Hamletsっていう名前の役所だったんですけども、ここにですね、ちょっと説明が必要なんですけども、このイギリスでですね、こういった許可を出す場合と言うのは許可申請を市当局に対して申請をするんですけども、市の中にCommitteeと言う委員会がありまして、これは主に住民の人たちが構成されている委員会なんですけども、住民の代表者が集まっている委員会なんですけども、そこにまたなんか別のオフィス、事務所というか、機関がありまして、そこがCommitteeに委員会に推薦を出すと、これはいいですよ、とか、これはだめよ、とかというような推薦を出すような仕組みになっていまして、Committeeがこのプロジェクトのapplicationに対して、やってもいいよ、approvalの推薦を出しました。
ウェインライト先生	So...
井出氏	それで、このCommitteeがこの許可を受けるかどうかというですね、最終決定が2006年3月29日までに決定が下されるということになりました。
ウェインライト先生	...
井出氏	それで、結果的には委員会はこの申請をですね、却下するという事になってしまいました。と言うのはですね、周りの地域からですね、沢山クレームが出た、と言う事なんです。特に、周りにある高級アパートの住民の人たちがですね、かなり数多くクレームをつけてきたという事です。
ウェインライト先生	So we...
井出氏	それで、私たちはこの決定に対して異議を申し立てまして、最終的には2006年について許可を受けることができました。
ウェインライト先生	So...
井出氏	ということで、全ての許可申請の書類関係は終わりました。
ウェインライト先生	So the next...
井出氏	次はですね、どうやってこれを建設するか、という話に入っていきます。
ウェインライト先生	Something...
井出氏	それで、最初にちょっと申し上げるのを忘れてしまったんですけども、私たちのグループと言うのはですね、この船の管理、運航、運営の技術を持っているという事もあるんですけども、もう一つはそれぞれの、このメンバーのそれぞれがですね、プロの専門家集団だということなんです。その中には例えば、建築家、それから工業デザインのコンサルタント、それから溶接ができる人、その他ですねいろんな技術とか専門職を持った人たちの集まりだったので、自分たちでこの棧橋の計画をして、デザインをして、と言う事ができました。
ウェインライト先生	So...
井出氏	ということで、技術的な設計がですね、非常に重要になってくるわけですけども、例えばここに映っている橋ですね、これは一日に2回8m上下するテムズ川の水位に合わせてつくらなければなりませんし、この杭ですね、杭もやはり上下する水位に合わせてそれなりのものをつくらなきゃいけないという事で、技術的な要素と言うのは非常に大きかったというわけです。
ウェインライト先生	So...
井出氏	それでここにですね、このプロジェクトのpriority(優先順位)を3つほどあげました。一つは、自分たちのボートを泊めて住む場所をつくるという事です。それと、二番目としては、周りの住民の人たちがここを使えるという事です。三つ目としては、ロンドンの外から来た全ての船がこの棧橋を利用できるという事です。

The Project
 - A strong live aboard community for up to twenty historic seaworthy vessels
 - An emphasis on boat and river use
 - Facilities for educational, cultural and community involvement



The story so far..
 - 2005 Environment Agency and Port of London Authority clear concerns over planning application
 - 2006 Port of London Authority grant draft license for residential and mixed use mooring









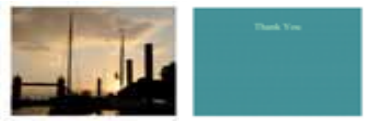
The story so far..
 - 2005 London Borough of Tower Hamlets publish report to Development Committee recommending approval for HCA application
 - Committee due to consider application 23 March 2006

The story so far..
 - London Borough of Tower Hamlets refuse planning application
 - HCA appeal against planning decision
 - Planning application is presented and appeal finally given in 2006



The heart of the project
 - Putting communities first
 - Boat moorings, and shore side moorings
 - Local communities
 - Mooring boats

ウェインライト先生	These are...	
井出氏	これは私たちのメンバーが描いた設計図ですね。これをさらに専門家にこういう図面をだして、ここをつくっていったわけです。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	それで、私たちのメンバーの中でですねいくつかやらなきゃならないことがあったんですけども、その一つはですね、まず、このプロジェクト全体を運営していくマネジメントチームをと言うのを、まず最初につくりました。それから、この建設するにあたって、いろんなエンジニアリング会社とか、建設会社とかにですね、コンペと言うか見積もりを取ったんですけども、そういう見積もりをやって業者を決めるというような作業もしていきました。それからもう一つは、資金を集めるという事。それと、次はですね、メンバーの人数を増やしていくこともありました。それから最後に建設完工の時期をですね、タイムラインに沿って行っていくという事でした。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	それで、2009年3月にプロジェクトが完成しまして、今はもうボートがですね、いろんな船がここに係留されています。それで、マネージャーが、この桟橋全体のマネージャーがですね、ひとり管理人さんがいまして、その人を雇って管理をしてもらっています。それから、Board of members、このグループの理事会のようなものもあります。それからVisitor berthsもできて利用が可能になっています。それから、一般の人たちが入れるような仕組みと言うか、そう言ったものもできています。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	それで、最初の年はですね、60以上のvisiting boats、他の場所からやってきたボートを受け入れました。それから、年のうち4日間、一般公開の日を設けました。それからですね、オープニングパーティーと言う事で、大きくパーティーをやりました。それから、先ほど絵の真ん中にある、pierhouseと言うかクラブハウスみたいなまん中の家屋ですが、これを一般向けに貸し出ししたり、ということもしました。それで、一番最後はですね、コンサルタント会社を設立しまして、このような桟橋をつくり、水面の再利用とかですね、活性化のためのコンサルタント、ロンドンが中心なんですけども、ロンドンに限らずその他の場所でもこういった、ものをつくりたいという人の為にコンサルタントができるような組織もつくりました。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	と言う事で、ご覧のように、スケッチというか、パース図から現実の写真に5年間かかりましたけれども、夢が現実になったわけです。	
ウェインライト先生	So I'll...	
井出氏	最初、ちょっとここで建設現場の写真みたいなものをすこしお見したいと思います。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	最初にですね、杭打ちから始めました。	
ウェインライト先生	And the...	
井出氏	浮き桟橋をそこにセットしていくわけです。	
ウェインライト先生	We...	
井出氏	それで、こういった工事と言うか、作業はですね、ほとんどは自分たちで行っていきました。ここにいるのは二人のここに住んでいるボートのオーナーなんですけども、こういった作業を皆で一緒にやりました。	
ウェインライト先生	So...	
井出氏	この写真の一人はですね、フィルムメーカーで映像作家ですね、それから、もう一人映っているのは演劇の舞台監督ですね。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	たまにはですね、失敗というか、予期せぬアクシデントも起きたんですけども、ここにあるのはpontoon、浮き桟橋が壊れてしまっていて、それを取り外して、自分たちで修理にもっていかなきゃならない、と言う事もありました。	
ウェインライト先生	This is...	
井出氏	この写真はちょっと面白いのでぜひ見ていただきたいんですけども、この向こう側に映っている建物はもともとは倉庫で、川が舟運とか通商で使われていた時の倉庫です。今はこれが高級アパート、超高級アパートですね。ロンドンでもかなり、一番高いぐらいのアパートになっています。	
ウェインライト先生	Here ...	
井出氏	手前にあるのは超高級なレストランです。	
ウェインライト先生	So ...	
井出氏	と言うとで、この人たちがやっているという事と言うのは陸側、川沿いなんですけども陸側でいろんな活動を、レストランをつくり、マンションをつくりということもやっているんですけども、私たちのやりたかった事、と言うのはまさに水面側でいろんな活動をやっているという事でした。	

ウェインライト先生	So ...	
井出氏	これがその桟橋全体のちょうど中央に位置している上屋です。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	それでこの、こういう上屋の構造自体はですね、非常に自由度が高いものになっていて、いろんな活動をここで出来るようになってます。例えば、コンサートやったりですね、展示会をやったりということも出来るようになってます。それからコミュニティー、周りの、周辺の住民が来て何か活動したりとかですね、そういうことも出来るようになってます。	
ウェインライト先生	So ...	
井出氏	それから、キッチン、お風呂ですね、を備えていて、エンターテインメント、人が来て楽しんだりするような施設にもなっています。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	それでこの材質はですね、伝統的な木の材質である、オークを使っています。それで、大工さんと呼んできて、伝統的な工法でつくっています。構造をつくっていま	
ウェインライト先生	This is the...	
井出氏	これが今現在こういう状態になっています。	
ウェインライト先生	We have ...	
井出氏	それでこれが一般公開の日の写真なんですけども、いろんな人が来てですね、古い歴史的な船を見たり、ボートオーナーと話をしたり、ということをしています。この日はですね、600人の訪問者がいました。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	それで、一般公開の日にはですね、この古い歴史的な船を使って、川に出るといような、来訪者の人たちを乗せて、川に出るとい活動をしました。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	それで一般の人にですね、私たちがどんな活動しているとか、見てもらっていますし、ちょっと食事を出して、食べてもらったりと言う事もしているわけなんです。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	それでついにですね、このプロジェクトが完成して、オープニングの日を迎えたんですけども、その日はですね、ビッグパーティーを皆でやりました。	
ウェインライト先生	This...	
井出氏	パーティーの写真です。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	私もそこにたまたま居合わせておりました。大変楽しかったです。	
ウェインライト先生	...	
井出氏	ということで、大変なプロジェクトの大変なところばかりお見せしましたが、こういうリラックスしたりもあるわけなんですけども、一番左はですね、David(デイビッド)と言って、映画監督、実は結構有名な映画監督なんです。それから、右側、一番右は学校の先生、大学の先生、真ん中は私の妻です。	
ウェインライト先生	So we ...	
井出氏	それで、この5年間に渡るですね、かなり大変な苦勞をしてきたんですけども、ついに完成を迎えまして、ロンドンでもですね有数の、多分最高の景色じゃないかと思えますけども、景色の桟橋を作ることができました。私たちは、特に水辺というか、川の活性化というようなものに貢献できたという事も、非常に満足しているところで。それから、それによってですね、未来の川の使い方というものをいろんな人に知ってもらう機会になっているという事もですね非常に嬉しく思っています。	
ウェインライト先生	Thank you ...	
会場の拍手		
陣内先生	どうもありがとうございました。本当にびっくりというか、大変偉大な事業、苦勞をなさったけど成し遂げたってことで、東京と重ねながら本当に見せていただけてですが、今日も東京で、日本の各地でいるいる苦勞されながら水の空間の、regeneration再生に向けて取り組んでいらっしゃる方がいっぱいいらっしゃるんですけども、皆さんいっぱい質問があるじゃないかと思うんですが、2,30分、ぜひ、熱く、ディスカッション、質問をできれば、と思います。	

質疑応答

話者	内容
質問者1	素晴らしいお話をありがとうございました。5年間でこれだけの事をやるというのは、東京の川ではほとんど無理だと思うんですね。それは非常に素晴らしい。それで、いくつか質問はあるですけども、もっともお聞きしたいのは2005年に許可を申請して、2006年にCommitteeに反対をされたと、そのすぐ後に、認可されていますよね。その認可、Committeeが反対されて、さらにそれを、それほど期間をかけずに認可されたその理由、背景は何なんでしょうか、と言うのと、それから、施設、川の管理者っていうのは行政だと思うんですけども、施設は民間ですよね。行政の管理スペースに民間の施設を、まー、隅田川なんかは到底できないわけですけども、その辺の調整はどうなのかな、と。東京の川は治水が基本ですから、治水に影響がある構造物っていうのは原則つくれないですよね。その辺のことをちょっと教えてください。
ウェインライト先生	...
井出氏	<p>東京の状況っていうのはですね、ロンドンと比べるとだいぶ違うということは理解しているんですけども、これを行政的に許可申請とか難しさをですね、越えていくようなそういうインスピレーションと言うか、そういうことは可能だとまず思うというか、イメージーションを使って、それを思うっていう事が大事、想像していくという事が非常に重要なんじゃないかなと言うふうに思います。行政のですね、行政のその頑なさと言うか、そう言ったものはロンドンも東京も同じだと言うふうに思います。そういう中で、港湾は港湾の事、陸側は陸側の事というような、縦割りというか、そう言ったものは同じだと思います。そいった中で、私たちはですね、結構政治的な動きと言うか、そういうふうな動きをしていきました。</p> <p>まず、港湾に、港湾局、港湾はですねロンドンの川を全部管理しているわけなんですけども、まず、港湾にあたって行ったわけですね。コンタクトを取っていったわけです。というのは、港湾は非常に私たちに対して好意的でしたし、川の上に人が住む、と言う事をですね、奨励しているようなところも少しあって、まず、港湾に行きました。</p> <p>行政側と話した、主張したというか、説得に使った材料というのはですね、もともとあったその古い船をどういうふうに、行き場を探って言っていますけど、要するに処分というか別の場所に移さなきゃいけなかったんだと思うんですけども、それに対して、二つのやり方がある、割と非合法というか、あんまり公にしないで、どっかに、こー、別の場所に隠してしまうという方法と、もう一つは一般公開というか、合法的に船の行き場を探す、と言う事だったんですけども、私たちが言ったのは、私たちのグループっていうのは、責任を持って安全にですね、物事を進めるので、合法的にやりますので、私たちに任せの方がむしろいいんじゃないかと、他にですね、別の場所に船を持って行っちゃうということよりも、そっちの方がいいんじゃないかと言う事を、行政に説得したわけです。</p> <p>それで行政に対して提案した中身ですけども、もうひとつ重要だったと思うのは、その外部からの、ロンドン以外から来た船を受け入れる棧橋だという事、Visitor棧橋をつくってですね、受け入れたという事です。スペインとかロンドンにはいろんな場所から船が来るんですけども、スペインとかオランダとかからですね、船で皆さん来るんですけども、非常にその流れが速い川ですし、入ってきてどこに接岸すればいいのかわないままにですね、フラフラ入ってきたりすると、非常に危険なわけですけども、まそういう、どこに停めていいかもわからない状況ですので、港湾の人たちに言ったのは、そういう人たちの為に棧橋を、Visitor棧橋をつくりますので、その辺は、そういうふうに向こうに提案しました。</p>
ウェインライト先生	With the ...
井出氏	それで、港湾の場合はさっき言ったようなことだったんですけども、陸側の行政に対する申請と言うのはですね、だいぶ状況が違ってまして、彼らはですね、このプロジェクト自体がほとんどもう理解不能だったんです。さっきも言いましたように、委員会があって、そこにですね、住民の意見を反映した委員会が設営されて、決定を下すという事なんですけども、非常に変な結論が最初に出てしまったですね。それはまわりの住民が沢山反対、高級マンションの人たちが反対したからということなんですけども、だけでもその法律にのっとりますと、それに対して異議申し立てを出来る、と言う規則がありまして、それを使いました。異議申し立てすると、一旦その委員会から権限が離れて、もう一度、行政側で決議が、決定が下せるという事があったんでそういうプロセスをたどりました。
ウェインライト先生	...
井出氏	それで、委員会ですが、反対意見が沢山出たんですけども、その反対意見の多くはですね、後ろにある高級アパートの住民が出した意見だったんです。この住んでいる人たちは非常に、かなり裕福な人たちだったのは間違いのないんですけども、だいたいこのマンションがですね、7million poundsと言っていますから、10億円位だと思いますけども、彼らが反対したのは、川の景色が壊されてしまう、というようなことを言われました。
ウェインライト先生	So there are...
井出氏	この、もともと住んでいた人たちがですね、彼ら、政治的な圧力とかですね、そういうネットワークというか、自分たちのつながりを使って、委員会に圧力をかけて、そういう反対意見を出してきたんですけども、最終的には、異議申し立てをして、した結果、行政側はですね、これに、特にこの棧橋をつくることに対して、行政としてももうストップ出来ないというか、許可出さざるを得ないという結論になりました。もともと権力をもっていたわけですし、新しい棧橋をつくることそれ自体は止められないとなったわけです。それで、今となってはですね、この高級マンションに住んでいる人たちは、結構、棧橋に遊んでくるようになりまして、子供つれて一緒に来たりしてですね、一緒に楽しんだりしています。最初、一番最初はですね、私たちの事をなんかすごい変な変わり者集団というか、言ってみれば犯罪者集団じゃないかぐらいにかんじに見られていたんですけども、今は遊びに来てくれています。
質問者2	夢っていうか、水の上に住みたいという夢と現実をどういうふうに結び付けるかっていうことに今日、大変感動いたしました。私も南アジアの水上集落なんかを、調査したり、学生つかって行ってきたんですけども、その一番現実の問題として、大きな問題は、ゴミの問題だとか、排水の問題だとかっていうのがあったんですけども、水ですとか電気に比べて大きな困難を伴ったのではないかなと、どんなふうな解決法をされたのかうかがいたいなと思います。
ウェインライト先生	...
井出氏	この棧橋の下にですね、浮き棧橋の下に、排水パイプが通っていて、それぞれの船に、船からの排水がそこにつながるようになっています。さらにその排水パイプはですねクラブハウスというか、家屋の下を通過、橋のランプの、橋の裏側を通過、陸上側の下水システムに直結するようになっています。と言うわけなので、システムとしては一般の家屋と全く同じ、排水システムをとっています。唯一の違いはフレキシブルだという事です。
ウェインライト先生	We have ...
井出氏	それでその、下水をどういうふうに汲み上げているかというのと、強力なポンプをつけてやっています。あげるようにしています。反対から、陸側からはですね、上水が入ってきてまして、それと同時に電気とインターネットのアクセスというものも入ってきているというわけです。
ウェインライト先生	...
井出氏	ですので、水に、川にですね、下水を一切流していません。
質問者3	楽しい話をどうもありがとうございました。僕も水辺が大好きなんですけれども、その高級住宅街の人たちが、その奇妙なものが建てられるのが嫌だって言うふうに行ったのが、非常に現代的な問題を示唆していると思っていて、ともすると、水辺の開発がおこなわれてしまうと、船が、舟運だったりとかそういうものが外されて行ってしまう、という傾向に特に日本でも、海外でもあると思うんですが、船とか舟運とかが、水辺になきゃいけない理由というかですね、そう言った魅力みたいなものを教えていただければなと思います。
ウェインライト先生	Ok ...

井出氏	個人的な感じなんですけれども、私自身ロンドンが大好きで、ロンドンは東京と同じようにですね、非常に文化的にも豊かですし、いろんな活発な活動があったりしてですね、大好きな街ですけども、住宅事情というのは非常によくはないわけなんです。住宅事情というか、要するに住む場所が非常に高いというわけですけども、船に住めば多少ですね、陸に住むよりは安くすむことができる、というのが一つ。 それともう一つはですね、都市から独立するというか、自立するというか、そういう都市から離れて生活するという事が私にとっては重要な事なんですけども、水の上に出るという事は、水面に出るという事は、ある意味、陸から出るんですけども、それはすなわち、都市、ロンドンから一歩出る、と言うふうには私は思っています、それがですね、精神的な静寂さというか、そういう気持ちの落ち着きとか、そういうものをもたらしてくれるので、私は非常にいいというふうには思っています。
ウェインライト先生	...
井出氏	その巨大、ロンドンみたいなですね、巨大都市に住むことはですね、... 住民同士、住んでいる人同士ですね、孤立してしまっ、お互いそのコミュニケーションとか、そういうやりとりがなくなってしまうというのが大都市、巨大都市に住んでいるということだと思いますが、この桟橋で私たちが住むというなかではですね、... 住んでいる人、15人ぐらいの住民たちのなかですね、非常にそういう親しい関係が築けるということがあります。例えばこの後ろに建っているような、その高級マンションの人たちはですね、お互い顔も見ないし、コミュニケーションをしないわけなんですけども、私たちは映画祭やったりですね、イベントをやっているんですけども、映画祭やったり、creative、創造的なプロジェクトやったりしています。私が川の活性化という事を言ったときに重要だと思うのは、やっぱりそのcreative(クリエイティブ)な人たちが集まって、そういうクリエイティブコミュニティーを作って、作るという事自体が、川をですね、最終的には活性化させていくという、非常に重要な要素じゃないかと言うふうには思っています。
質問者4	In Japan ... 日本はすごく土地が高いですね。ですから... 日本にも適用したいと思っています。しかしながら... 水の問題とかいろいろ問題とか、土地の問題とは違う 2つ目の質問はですね、... それはいいと思う人はたくさんいると思うんです。... 水のそばに住むのはいかにいいか教えたり、学習させたりしないといけません。... イギリスは何となく...
ウェインライト先生	Can I ask ...
井出氏	今、質問、2つ目の質問の方、どうやってその住民の人をですね、事前に説得するか、と言う事なんですけども、私たちが重要視したのは、やっぱり人としてですね、コミュニティーの人と面と向かって会って、話をして、ミーティングをして、説得するという事でした。向こうのその住民の人たちはですね、もともとそのもう固定観念みたいなものがあって、非歓迎されない、私たちは歓迎されないというか、歓迎されていない人間だというのが一つと、もう一つは、... 二つ目はですね、土地開発業者とじゃないかと思われるですね、金儲けをするんじゃないかと思われるということでした。
ウェインライト先生	So we ...
井出氏	それでその、歓迎されないとかですね、開発業者じゃないっていう事を説得しなきゃなんないんですけども、それで私たちがやったことと言うのは学校に行ってですね、子供たちにもこのプロジェクトを説明するという事をやりました。それともう一つはですね、高齢者の方、周りに住んでいる高齢者の方、この人たちはですね、テムズ川の昔の姿とか、川の使われていた時のことを知っている人たちなんですけども、そういう人たちと沢山会って、話をしました。話と言うかこのプロジェクトの説明をして説得をしようとした。これは、プロジェクトがですね、歴史を振り返るプロジェクトであると同時に、その将来の子供の将来とか教育とか、そういう事にも、主眼、フォーカスしている、主眼を置いている、と言うプロジェクトだということを皆さんに説明して回りました。
ウェインライト先生	The first ...
井出氏	最初の質問に関してなんですけども、水面、いくらぐらい川の水面の価値というか、水面の土地価格みたいなものがいくらぐらいか、ということだと思うんですけども、これに関して他の方はどのくらいちょっとわかっていただけるかわからないんですけども、非常な答えというか、正確というか、正確な答えがありまして、まず最初にですね、コスト算出を、かなり正確なコスト算出を、桟橋を作るための建設費のコスト算出をしました。2000000pounds(200万ポンド)だから3億円前後で、3億円くらいかかるという算出をしました。この3億円を18人で割ると、一人当たりの出資額というか、出費があります。
ウェインライト先生	And each ...
井出氏	それで毎年、メンテ費用と言うのは、ものすごく少額なんですけども、それがどんどん積み重なって、かかります。 それでその、桟橋の構造、桟橋自体にはですね、税金はかからないんですけども、その来る船というか、そこに停まっている、係留している船に税金がかかりまして、その税金はロンドン市に支払っているという事です。
ウェインライト先生	So ...
井出氏	それで、この桟橋のですね、費用算出というか、価値算出というのをかなり詳しく、詳細を出しました。それで、ここに住むためには、権利を得るためにはですね、いくらかここにお金を出さなきゃなんないんですけども、3億円割る18と言う事だと思いますけども、それでひとつ、条項な取り決めがあって、出て行く時ですね、いつでも出て行っていいよ、とはなっているんですけども、ここを権利を放棄して退出するときは、デポジットみたいなものを取り返して出ていく、と言う事になっています。と言う事は、次に入ってきた人がですね、それと全く同じ額をもう一回ここに入れるというふうになっています。ということは、そこでですね、値段がつりあがっていったりとか、利益を出したり、ということが一切出来ないような仕組みにしたんです。これは言ってみればですね、私たちは、反資本主義家の集まりですので、そういうシステムにして、値段がずっと一定になるような仕組みにしています。
質問者5	質問ではないんですが、お話を伺いまして、つい数年前まで桟橋をつくるのに、社会的に、技術的においてさえ許可が受けられなかったという事が非常に私ショックを受けました。私ども、ロンドンのテムズ川と同じように、東京の隅田川の下流に船をおいております。40年近く戦っておりますけれども、いまだに許可も得ないし、まともにしていないと船をもっていかれて、処分されてしまう、というような条件におかれております。つまり、アメリカのように川を市民に、ニューヨークのハドソン川のように市民のために非常に開放的に使われているところと、テムズ川の、先生が戦ってようやく勝ち取ったという、社会的な構造が2つあるということに大変ショックを受けたというか、興味を抱きました。以上です。
ウェインライト先生	It is the same ...
井出氏	今、私思いますにその川に対してですね、非常にこれ世界中どこもそうじゃないかと思うんですけども、ひとつ大きな誤解があるんじゃないかというふうには思っています。 それはですね、川の重要性ということをですね、多くの人が理解していないんじゃないかな、という事なんです。都市というものはそもそも川がないとですね、成り立ちえなかったですし、今でもそういう事だと思いますけれども、そういったですね、理解をもっとして欲しい、していくべきじゃないかと思っていて、そういう誤解を解いていくためにですね、例えば、こういうロンドンの事例がいろんな人に理解を促進したり、インスピレーションを与えたり、またそれに、これに関わっている人にですね、こういうことできるよ、できるんじゃないか、っていう自信みたいなものをですね、少し挙げられればいいかな、と思っています。 私たち5年間ですね、戦ってきたわけですけども、非常にその大変な思いをしてやってきましたが、そういう、いろんな人にですね、理解を深めてもらったり、インスピレーションを挙げられれば、それはよかったですじゃないかというふうには思います。

質問者5	ひとつ付け加えさせていただきます。ロンドンの場合はテムズ川の下流に…の船を置いて、…と言う所で、世界中の著名なヨットマンが集まって、長い間楽しんできました。そういう伝統があるからこそ、そういう市民の理解が得られたんだと思います。
井出氏	コメントどうもありがとうございました。
質問者6	I am ...
井出氏	法律的なことですね、一つ確認したいことがあって質問するんですけども、日本は港湾は港湾局の管理、川は河川局の管理ということになっていますけども、テムズ川の場合はどういうふうになっているか、というご質問
ウェインライト先生	I'd ...
井出氏	ロンドンの場合はですね、潮位が変わる、川の中でも潮位が変わる部分は普通のそのテムズ川とかそうなんですけども、そこは港湾の管理ということになって、それから水門で仕切られている運河、これは潮位が変わりませんけれども、そっちはBritish water ways、英国水路協会というところが管理しています。その2つがありまして、私たちのエリアはこれは川ですので、潮位が変わる川ですので、港湾局の管理下ということになります。
質問者6	My second...
井出氏	もともとその買われた前ですね、この桟橋、古い桟橋のオーナーから権利を買われたっていうにお話だったんですけども、実際にどうい権利を買われたか、というご質問です。
ウェインライト先生	We bought...
井出氏	もともとあったその桟橋と古い船はですね、購入したんですけども、それは、あとその杭とかですね、そういったもの、それは大した価値はなかったんですけども、それと一緒に、港湾局からその前のオーナーが持っていた許可と一緒に購入しました。これは2000 poundsから3000 poundsと言っていますけども、その商業目的で使っていいよ、という許可をもらってましたので、それをそのまま譲り受けました。それがあって、それを住宅許可に変えたわけなんですけれども、そのもともとのライセンスがあったから住宅許可も割と簡単にとれたということだと思います。
質問者6	So ...
ウェインライト先生	It's ...
井出氏	その許可というのは、住居許可、住居として使う許可っていうのは、もともと港湾局の、permissionというか、許可の中にそういうものがあったのでしょうか、と言う質問だったと思うんですけども、あるにはあったのかもしれないけれども、非常に希少というか、珍しい、ほとんどロンドンでは水面で住宅許可っていうのは無かったということ。それが今は、ひとつの、こういうモデルケースが出来ましたので、他のロンドンなり、イギリスの他の場所でもこういう事が出来るようになった、と言う事です。
質問者7	I have three shorts questions. Firstly, Committeeから拒否された後、オフィシャルアピールをした、とおっしゃいましたが、それはCommitteeの決定が合法的ではない、という点のアピールだったのでしょうか。それがひとつです。 2つ目は、皆さんがRoyal marine certificationsを持ってらっしゃる、とおっしゃいましたが、RYA、Royal Yachting Associationのライセンスをお持ちという意味でしょうか。 それから、3点目です。テムズ川で、のセーリングというのは17世紀に王様がヨットレースをした、と言う古い歴史がありますが、今でもテムズ川のようなセーリングは自由なんのでしょうか。 この3点です。
ウェインライト先生	First question ...
井出氏	1つ目の質問に対してはですね、そのCommittee委員会の決定っていうのが、その市の条例とか、市の法規を、要するに、それ自体合致していないんじゃないかと言う事を異議申し立てをしました。その委員会がですねその反対意見に影響されてしまっていたので、それ、結果的にNoと言う事も可能だったと思うんですけども、場合によっては、人によってはですね、じゃこれ駄目だって言われたら、そこであきらめてしまうっていうケースは沢山あると思うんですけども、私たちは、そこはですね、チャレンジしてみる、挑戦してみる価値があるというか、挑戦できると、その行政の決定、委員会の決定に対して、挑戦してみよう、というふうに考えてやったんです。
ウェインライト先生	...
井出氏	2番目の質問はメンバーのなかのですね、ヨットライセンス、ヨットの免許を持っている人たちはどういうライセンスかという質問だったんですけども、RYAというRoyalヨット連盟ですか、そのライセンスを持っています。皆持っています。それと、プラス、無線の免許ですね、船舶無線の免許と、それから何人かはですね、商業運航できるような免許とか、あとその沿岸というか外洋に出られる免許を持っている人たち、メンバーもいます。
井出氏	それで、3番目のヨットレースが、sailingっていうか、帆走ですね、帆走今でもできるか、ということなんですけども、今はですね、テムズ川に洪水を避けるための堤防っていうんですかね、そういうものが河口の方に出来ていますので、その外側でしかsailing、帆走はしちゃいけない、ということになっています。ですので、この辺の周りはsailingできないという事なんだと思うんですけども、外側では今でもですね、昔のそのテムズ、バージ船の帆がついたバージのレースをやっています、これはすごい、非常に見ごたえがあるレースなんですけれども、そういうものをやっています、私たちのメンバーの中でも2隻それで...(?)ている人もいます。
質問者7	ライセンスが国家のライセンスではなくて、ヨット協会のライセンスということですか。
井出氏	そういう事です。
陣内先生	本当に、皆さんから大変本質をつく、そして知りたいこと皆さん本当に沢山ある、みえて、本当にディテールに及ぶ、聞きたいことをですね皆さんぶつけてくださって、本当にありがとうございます。エコ研、私たちエコ研というのを、ずっと5年間あるいは6年近くやっているんですけど、こんなにディスカッションで熱く色々議論ができたっていうことは初めてで、だいたい日本の大学で講演会、外国から講師の先生来てやってもですね、学生諸君は全然質問しないし、なんてことも多いんですね。飲み会に行くと質問するんですけど、こういうところではなかなか質問してくれないんですけど。さすがに今日はですね、期待していたんですけど、本当に水辺の復活と言いますか、舟運を何とかしたい、そういう熱い思いを持ってらっしゃる方々が大勢来てくださったので、一番本当に知りたい事をですね、お話しただいたので、本当にもう、皆我々普段から突破したいと思っている障害、見事に、ま、苦労されたけど、突破したという、夢を実現したという、そこにみんな感動しちゃった結果のご質問だったと思います。本当にありがとうございました。
陣内先生	ウェインライト先生、本当にありがとうございます。そして、なによりもですね、井出さんが前から一緒にやってらっしゃるという事でね、それで内容をよく理解してくださっていたので、かなり複雑なシステムとか、制度とか、プロセスとかですね、そういうことをきっちり訳してくださって我々に本当に素晴らしい、偉業が全容が細かく、正確に伝わったという事で大変貴重な価値ある講演会になったんじゃないかと思っていて、井出さんにも大変感謝いたします。
陣内先生	お二人に本当に大きい拍手
会場の盛大な拍手	
陣内先生	どうも皆さんありがとうございました。また是非こういう会にまた集まってですね、本当にこう、いろんな情報交換し、知恵を、やっぱり賢く知恵を出して突破することを考えないと、strategyと言いますか、capitalistっていうのも面白かったんですけど、そういう夢をもたなきゃいけないし、しかし、それをクリアしていく、乗り越えていく、なんか非常に知恵と言いますか、実行力と言いますか、そういうのを本当に学んだと思います。
陣内先生	どうもありがとうございました。
会場の拍手	